

金龍山 浅草寺 東日本大震災復興支援

大絵馬寺宝展と庭園拝観

国指定名勝 伝法院庭園 (平成23年9月21日指定)



本展の収益は東日本大震災の義援金とさせていただきます。

金龍山浅草寺

浅草寺特別展示館・庭園

2011年11月1日[火]～12月5日[月]

ご入場時間:午前10時～午後4時(4時30分閉館)

ご入場料:一般300円 ※入場券1枚につき1名様に限り有効です。(中学生以下のご同伴者は2名様迄無料)

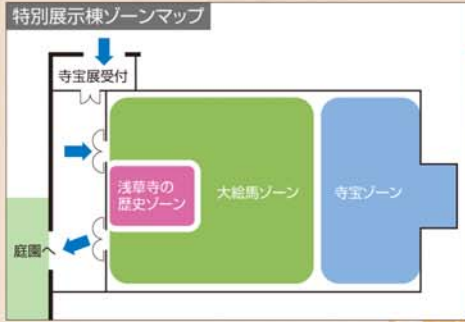
※当館は建築の特性上、バリアフリー対応となっておりますので、あらかじめご了承ください。

特別展示館

今回の展示は、はじめに「浅草寺の歴史ゾーン」にて浅草寺の寺宝である「縁起絵巻」を中心に浅草寺の歴史についてご紹介しております。続いて、「大絵馬ゾーン」で浅草寺に現存する大小様々な絵馬を紹介させていただきます。

そして「寺宝ゾーン」では普段ご紹介出来ない浅草寺の寺宝の一端をご覧ください。

どうぞ、ご堪能下さい。



庭園拝観

寺伝によりますと、寛永年間(1624~44)に幕府の作事奉行を勤め茶人としても有名でありました小堀遠州によって築庭されたといわれています。約一万平方メートルものこの庭園は、回遊式庭園として、園内を逍遙すれば一步一步その景観を異にします。

池には放生された鯉や亀などが泳ぎ、木々には野鳥が集まり、賑わう浅草にあって閑寂な佇まいをみせてくれます。また、江戸から明治までは法親王ご兼帯寺の庭として秘園とされておりました。

この都内でも有数の文化財を後世に残していくべく、この度平成23年9月21日に伝法院庭園が国の名勝に指定されました。

この機会にぜひご拝観下さい。



金龍山浅草寺

浅草寺特別展示館・庭園

〒111-0032

東京都台東区浅草2-3-1

TEL : 03-3842-0181 (代表)

URL : <http://www.senso-ji.jp/>

■交通案内 東武伊勢崎線浅草駅より徒歩5分・つくばエクスプレス浅草駅より徒歩5分

東京メトロ銀座線浅草駅より徒歩5分・都営地下鉄浅草線浅草駅より徒歩5分

浅草寺の寺宝・大絵馬

宮戸川からの観音像の示現以来、約三八〇年間の由緒と歴史をもつ金龍山浅草寺。

この聖観世音菩薩を本尊として祀る本堂(観音堂)には、古くから観音信仰の証しの一つとして絵馬が掲げられたといわれています。江戸時代に入り多くの絵馬や奉納額を掛けるために、とくに絵馬堂が建立されました。寛政二〇年(一七九八)の「観音堂境内諸堂末社諸見世小屋掛絵図」には、絵馬堂が本堂の手前東側に見え、また額堂という名で「浅草寺日記」や松平冠山の『浅草寺志』にも登場します。また明治三〇年(一八九七)頃の本堂外陣に沢山の絵馬が掲げられている様子が、「東京名所図会」(風俗画報臨時増刊)からうかがえます。

奉納願主の依頼により、当代流の絵師が丹精こめて筆をとった大絵馬は、観音参詣に老若男女が訪れ、その絵を見上げる人びとの眼を惹きつけました。いく度かの火災や震災をくぐり抜け、現代に伝わった貴重な浅草寺絵馬は、浅草寺の歴史と文化を物語る優れた芸術作品として私たちの眼に映ります。とくに大絵馬は、絵師の技量や意匠を競い合う作品ともなり、絵馬堂はいわゆる

ギャラリーとしての機能を持っていました。

現存する浅草寺の絵馬・扁額は約二五〇点で、五重塔の絵馬堂内にそのうちの主要な作品が保存されています。浅草寺を祈願寺として庇護(ひご)し、信仰の篤かった徳川將軍家、その二代將軍秀忠や三代家光が寄進した華麗な金時絵仕立ての双神馬の絵馬をはじめ、力作揃いです。江戸歌舞伎の始祖といわれる猿若(中村)勘三郎の二代目が寛文四年(一六六四)に奉納した大きな猿若人形絵馬。谷文晁(ぶんちよう)の金箔押地の上に筆勢鮮やかな駿馬の絵馬。高嵩谷(こうすう)の「源三位頼政(ぬえ)退治図」、長谷川雪旦の「楠公桜井の別れ」「鍛引(しろびき)」、鈴木其一の「迦陵頻伽(かりようびんが)」、三代堤等琳の「韓信股(かぶり)」、菊池容斎の「堀河夜討」、柴田是真(せしん)の「茨木」、歌川国芳の「つ家」、二代歌川国輝の「陣幕土俵入」、二代鳥居清元の「関羽」、鳥居清忠の「壺坂靈驗記」、四世澤村源之助の「澤市」、高橋源吉の「商標感得」などの大絵馬は、錚々たる絵師の筆による見事な作品です。そこには浅草観音との縁にかかわる画題や、奉納主の真摯



(狂言猿若人形) 勘三郎奉納

な信仰の姿を見ることが出来ます。この度、東日本大震災復興支援を兼ね、多くの方々に浅草寺の大絵馬をはじめとする、数々の寺宝を見ていただきたく、特別観覧を企画いたしました。ぜひご覧下さいませようご案内申し上げます。

